



株式や債券とは異なる特徴を持つ、投資先としての“金”。そんな金の魅力と、金にまつわるコラムを「知って得する、金の真実」としてお届けします。金への投資に興味を持っていただくなつかせましたら幸いです。

インフレに強い金

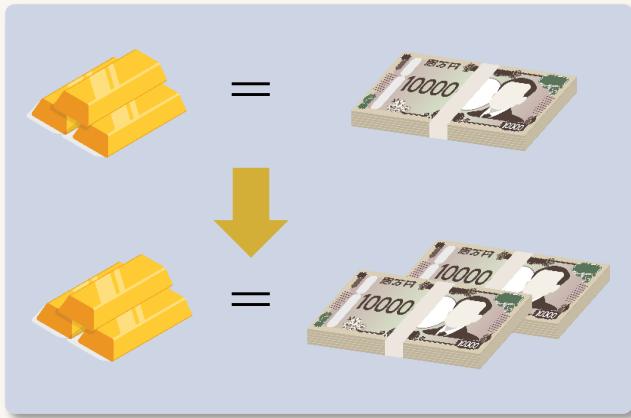
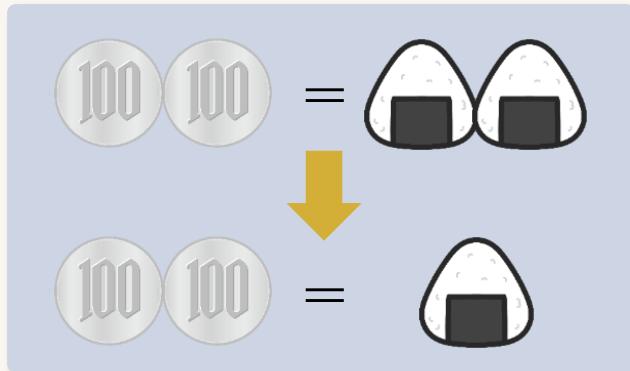
金に投資するメリットは様々ありますが、その中のひとつに「インフレ局面で、資産の目減りを抑える手段となり得る」というものが挙げられます。「金はインフレに強い」という話、どこかで聞いたことがありますか？でも、それって具体的にはどういう意味なのでしょうか？

ざっくり言えば、金は物価上昇に連動して価格が上がる傾向があるため、インフレ環境下では価値が高まりやすい資産です。つまり、インフレ時に値上がりしやすいことから、“インフレに強い資産”とされているのです。

もう少し噛み砕いてみましょう。

インフレ（＝インフレーション）とは、物やサービスの値段が全体的に持続的に上昇する現象を指します。最近、日々のお買い物で食料品や日用品の値段が上がったと感じることはありますか？2025年の日本も、インフレ傾向にあるといえます。※

「物の値段が上がる」というのは、見方を変えると「お金の価値が下がる」ということです。例えば1個100円（税込）のおにぎりが200円（税込）になってしまったら。以前は200円で2個買えたおにぎりが、今は1個しか買えません。つまり、同じ200円でも買える量が減ってしまう＝実質的にはお金の価値が下がっている、ということです。



お金の価値が下がるということは、ご自身の資産のうち、現金や預金等の価値が実質的に目減りしてしまうということ。これが冒頭で触れた「資産の目減り」です。この資産の目減りを防ぐ手段のひとつが「金」への投資です。

なぜ金が資産の目減りを防ぐ手段になり得るのかというと、金が資産としての価値を持つ「物」だからです。物の価格が全体的に上がるインフレ局面では金の価格も上がりやすくなる傾向にあります。だからこそ、金はインフレに強い資産とされているのです。

「インフレ局面で、資産の目減りを抑える手段になり得る」という金投資のメリット、ご納得いただけましたでしょうか？

※ インフレかどうかの判断基準

インフレの判断には、消費者物価指数（CPI (Consumer Price Index)）をもとに算出されるインフレ率が用いられます。一般的には、このインフレ率が継続的に高い水準で推移しているかどうかがインフレとみなされる指標とされています。2025年4月時点における日本のインフレ率は3.6%であり、さらに過去3年以上にわたって物価上昇傾向が続いていることから、現在の日本経済はインフレ傾向にあるといえるでしょう。

（出所）Bloombergのデータより三菱UFJアセットマネジメント作成

Column ~車を買うには、“金”がどれくらい必要?~

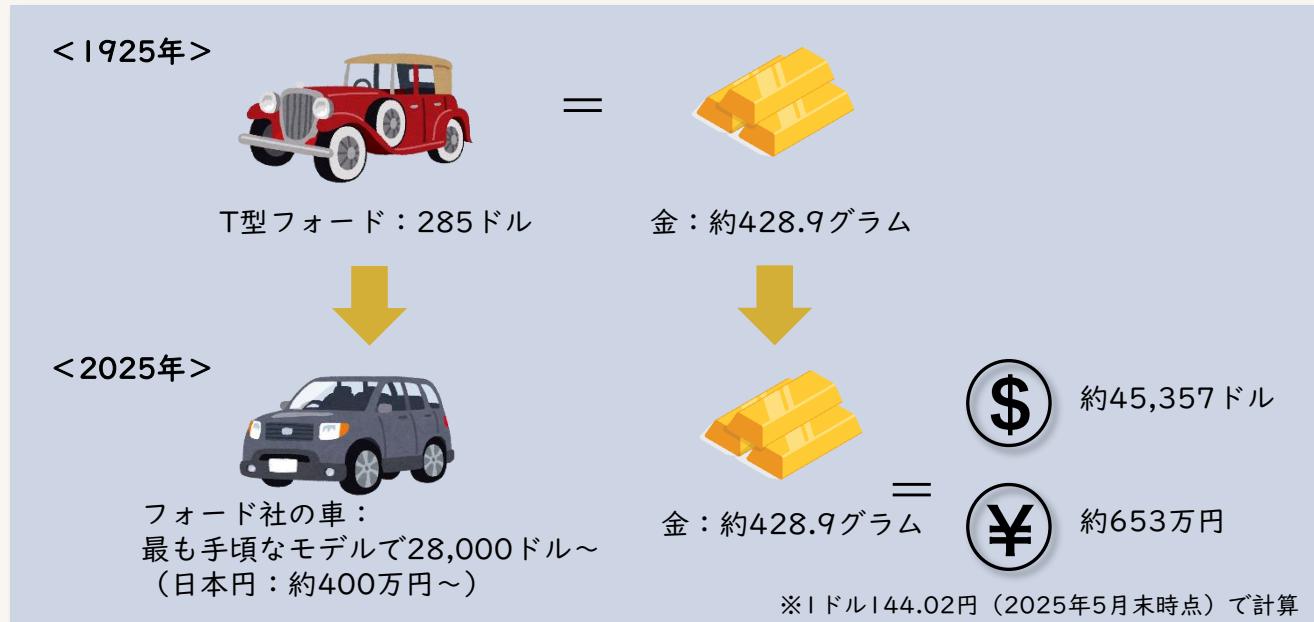
1900年代初頭、アメリカで自動車の量産を始めたフォード社。創業者ヘンリー・フォードは、流れ作業による生産方式を導入し、自動車の大量生産を実現したことで知られています。それまで高価だった自動車は、この生産革新によって価格が大幅に下がり、一般家庭にも手が届く存在となりました。

例えば1925年、当時のフォード社の代表的な車種「フォード・モデルT（通称：T型フォード）」の価格は285ドル程度まで下がったとされています。当時、1トロイオンス（約31.1グラム）の価格は約20.67ドルでした。つまり、T型フォード1台（285ドル）は、金に換算すると約13.79オンス、すなわち約428.9グラムに相当します。

では、この428.9グラムの金は、現在どれほどの価値があるのでしょうか。2025年5月末時点の金価格は、1トロイオンスあたり3,289.25ドル、日本円で473,718円でした。これを基に計算すると、428.9グラムの金は約45,357ドル、日本円にしておよそ653万円の価値になります。この金額があれば、現代でも中～上級クラスの乗用車を購入することができます。

ちなみに、2025年現在のフォード社の車の価格は、最も手頃なモデルでも28,000ドル（約400万円）程度からとなっています。仮に1925年から現金で285ドルをそのまま保管していたとしたら、今のフォード社の車を買うには到底足りません。ですが、もし当時その金額分の「金」を保有していたなら、100年後の今でも車を買える価値を保っていたことになります。

あくまで一例ではありますが、「金がインフレに強い資産である・金の価値が時間を超えて保たれる」というイメージを持っていただけましたら幸いです。



（データ基準日）2025年5月30日

（出所）Bloombergのデータ、各種資料等を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

！ 本資料に関するご注意事項等

- 本資料は金についてご理解いただくための参考資料として、三菱UFJアセットマネジメントが作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。本資料は投資勧説を目的とするものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

！ 本資料の作成は



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

お客様専用
フリーダイヤル
0120-151034
(受付時間／営業日の9:00～17:00)

●ホームページアドレス：<https://www.am.mufg.jp/>